

(提案 1 1)

日本学術会議主催学術フォーラム「科学を変えるデータジャーナル - 科学技術データの共有・再利用の新たなプラットフォーム構築に向けて -」の開催について

1 主 催 日本学術会議

2 開催日時 平成 27 年 3 月 4 日(水) 11:00～17:30

3 開催場所 日本学術会議講堂

4 開催趣旨

国際アカデミー及びG8等政治の場でオープンデータが推進される一方、我が国の電子化された科学技術データにおける情報資産価値向上と科学・学術の発展のためにどのような体制を構築するかが問われている。データ共有・再利用の本格化時代に鑑み、さらなる価値向上へ向けて、従前のデータベースではない新たなプラットフォームとしての「データジャーナル」の理念と社会の中であるべき姿・展望を明らかにする。

5 次 第 (予定)

11:00 開会挨拶

喜連川 優 (日本学術会議第三部会員、情報・システム研究機構国立情報学研究所所長)

講演 第1部 日本のデータ・情報戦略について

原山 優子 (東北大学大学院工学研究科教授)

中村 道治 (独立行政法人科学技術研究機構理事長)

【昼食】

13:00 講演 第2部 データ共有と利用に関する国際連携について

Krishan Lal (前インド科学アカデミー総裁)

Paul Uhlir (アメリカアカデミー)

Iain Hrynaszkiewicz (ネーチャー誌編集長)

講演 第3部 分野別の国際データ活動について

植田 憲一 (日本学術会議連携会員、電気通信大学レーザー新世代研究センター特任教授)

小関 敏彦 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

総括討論 上記のメンバー (一部) のほか

浅島 誠 (日本学術会議連携会員、独立行政法人日本学術振興会理事)

岩田 修一 (日本学術会議連携会員、事業構想大学院大学教授)

総括 喜連川 優 (日本学術会議第三部会員、情報・システム研究機構国立情報学研究所所長)

(提案 1 2)

日本学術会議主催学術フォーラム「経済社会の変化に対応した経営学大学院のあり方」の開催について

- 1 主催 日本学術会議
- 2 共催 経営関連学会協議会、全国ビジネス系大学教育会議、日本経営学会(予定)、組織学会、日本会計教育学会、日本経営工学会(予定)
- 3 開催日時 平成 27 年 3 月 22 日(日)13:00～17:00
- 4 開催場所 日本学術会議講堂

5 開催趣旨

経営学大学院の教育には通常の修士課程・博士課程大学院と専門職学位課程における教育があり、その設立趣旨や受講者の意識が大きく異なる一方、経営学教育として共通の部分も数多くある。さらには社会からの期待も各大学院の形態によって異なる。これらの異質性や同質性について、現在、各大学院で必ずしも共通の見解に達しているとは言えないことから、これら大学院教育に携わる関係者や修了生の受け皿である産業界関係者が一堂に会して、国内の経営学大学院教育のあるべき姿を議論し、将来の経営学大学院教育の参照基準制定に向けた基盤を確立する。

5 次 第 (予定)

総合司会

徳賀 芳弘 (日本学術会議第一部会員、京都大学経営管理大学院教授)

13:00-13:10 開会挨拶

藤永 弘 (日本学術会議連携会員、青森公立大学経営経済学部教授)

13:10-13:20 主催者挨拶

井野瀬久美恵 (日本学術会議第一部会員・副会長、甲南大学文学部教授)

13:20-13:30 来賓挨拶

牛尾 則文 (文部科学省高等教育局専門教育課長)

13:30-14:00 講演 1 「経営学大学院教育の現状と課題—分科会の認識と審議状況—」

鈴木 久敏 (日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授)

14:00-14:40 講演 2 「経営学大学院教育に期待する」(仮題)

天羽 稔 (デュポン(株)名誉会長、経済同友会教育改革委員会委員長)

(休憩)

15:00-16:50 パネル討論：経済社会の変化に対応した経営学大学院のあり方
モデレータ：

奥林 康司(日本学術会議連携会員、大阪国際大学グローバルビジネス学部長)

平松 一夫(日本学術会議連携会員、関西学院大学商学部教授長)

河野 宏和(慶応義塾大学経営管理研究科長、(公社)日本経営工学会長)

田久保善彦(グロービス経営大学院研経営究科長)

金子 元久(日本学術会議第一部会員、筑波大学大学研究センター教授)

牛尾 則文(文部科学省高等教育局専門教育課長)

天羽 稔(デュポン(株)名誉会長、経済同友会教育改革委員会委員長)

永里 善彦((株)旭リサーチ相談役、(社)日本経済団体連合会産業技術委員会産学
官連携推進部会部会長)

コメンテーター：

国内の経営学大学院修了者 2名程度

16:50-17:00 閉会挨拶

高橋 宏幸(日本学術会議特任連携会員、中央大学経済学部教授)

(提案 13)

公開シンポジウム「分野横断型農学の新展開に向けてー物理学・数理学の視点とその重要性ー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 農学委員会、食料科学委員会
2. 共 催：日本学術振興会学術システム研究センター（農学専門調査班）、筑波大学生物資源コロイド工学リサーチユニット
3. 後 援：筑波大学
4. 日 時：平成27年3月4日（水）10：00～18：00
5. 場 所：筑波大学東京キャンパス（東京都文京区大塚3-29-1）
6. 委員会の開催：なし

7. 開催趣旨：

農学分野ではバイオテクノロジーの進展に伴い、生物学、化学的な視点に基づく分子生物学的アプローチが強力な手法として定着しつつある。しかし、今後の発展においては、その成果をさらに原理的なところまで掘り下げ、また分野を横断して複雑な現象論を紐解くような物理学的思考方法が不可欠である。俯瞰的立場からの農学分野での物理学・数理学に基づく思考法は、広く様々な環境に分布する生物資源の把握（海洋資源の調査、実験計画法）、流体（液相、気相）と生物の相互影響、私達が普段当たり前とし見逃している重力や浮力の本質的な生物影響とその機構解明、水の物性論を踏まえた水と生命の関わり特に相変化の生物影響とその機構解明、生物生存戦略との関係解明、生物圏および生物体内のガス環境とその生物影響、土壌、食品、木材などの物性の評価、生物資源の加工変換、バイオミメティクスに適用可能な多様な生物機能の物理学的探究、環境汚染や感染拡大の防止、災害から農地や漁場を守る技術の確立などへの潜在的な寄与が大きい。

本シンポジウムでは、こうした課題を「物理学・数理学に基づく思考の農学・農林水産業生産への積極的応用」と位置づけ、分子・遺伝子・個体・集団・生態系レベルの農学研究を分野横断的・包括的に行うための新たな方向性を探る。

8. 次 第：

10:00 開会挨拶

大政 謙次*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

10:05 趣旨説明

- 中田 英昭 (日本学術振興会学術システム研究センター (農学専門調査班) 主任研究員長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授)
- 司会 : 北宅 善昭 (日本学術会議連携会員、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授)
- 講演 :
- 10:20 農学における学術動向調査と微生物化学の情報学的新展開
吉田 稔 (日本学術会議連携会員、独立行政法人理化学研究所化学遺伝学研究室主任研究員)
- 10:50 農学に関わった化学物理の古典変遷とナノ粒子界面を使って考える生物環境流体物性論
 足立 泰久 (筑波大学生命環境科学研究科教授)
- 11:20 微生物におけるサイズと機能
 西田 博美 (富山県立大学工学部生物工学科教授)
- 11:50 異分野との接点が生み出す新学問～偶然と必然～
 土川 寛 (名古屋大学大学院生命農学研究科教授)
- <昼休憩 (12:20-13:20)>
- 13:20 土・水環境に遍在するフミン物質の構造化学的特徴とその多様性
 藤嶽 暢英 (神戸大学大学院農学研究科教授)
- 13:50 樹木の中の水の流れをどうとらえるか
 黒田 慶子 (神戸大学大学院農学研究科教授)
- 14:20 植物機能リモートセンシングとフェノミクス研究への展開
大政 謙次* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
- 14:50 作物の環境応答における生理生態・遺伝・微気象モデルの融合的アプローチ
 長谷川利広 (独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域上席研究員)
- <休憩>
- 15:30 食品の冷凍と水の挙動
 鈴木 徹 (東京海洋大学大学院食品生産科学部門教授)
- 16:00 水産資源と物理学・数理学の接点
 中田 英昭 (長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授)
- 16:30 TPPを乗切るための超効率的の高品質畜産物生産システム
真鍋 昇 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
- <休憩>
- 17:05 総合討論
- 進行 : 甲斐知恵子* (日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所教授)
- 17:55 閉会挨拶
甲斐知恵子* (日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 14)

公開シンポジウム「情報学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 情報学委員会
2. 後 援：独立行政法人科学技術振興機構(JST) (予定)、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所(NII) (予定)
3. 日 時：平成27年3月9日(月) 13:00 ～ 17:30
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定あり
6. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本学術会議の第23期における最初の情報学シンポジウムである。そこで、最初に、情報学委員会および各分科会の今期の活動予定を紹介する。次に、文部科学省より、情報通信分野に関連する最近の施作の動向の紹介、さらに国の科学技術政策の推進に関わる情報学分野への期待・要望等に関する講演をいただく。

その後、情報学におけるホットな話題として、ビッグデータを活用した新たな知能情報処理の展開の兆しが生まれつつあることから、脳型プロセッサの動向、さらに、当該技術の進展に伴う社会規範について二件の講演と議論を行う。近年、ディープラーニングなどの脳に近い計算モデルに基づく知能情報処理の技術が急速に進展しており、さまざまな分野で注目を集めている。また、従来のものより集積度も電力効率もはるかに高い脳型プロセッサの開発も進んでいる。このような情報学に関わる技術の高度化が、未来の社会にどのようなインパクトを与えるか、また、そのときに倫理的、法的、社会的な問題にどう取り組んでいくかなどについて議論を展開したい。

最後に、ここまでの議論を踏まえ、パネル討論により、第5科学技術基本計画に向けたICTに関する議論を行う。これにより、現況における情報学分野の位置付けを明確にした上で、第23期の情報学委員会の審議活動につなげたいと考えている。

7. 次 第：(プログラム案)

13:00-13:05 開会挨拶

喜連川 優* (日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長)

13:05-13:25 情報学委員会報告

喜連川 優*（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長）

13:25-14:15 招待講演 右脳プロセッサ IBMアルマデン（調整中）

14:15-15:05 招待講演 E L S I エセックス大学（調整中）

15:05-15:30 情報施策の現況

鈴木 敏之（文部科学省研究振興局参事官（情報担当））

15:30-15:50 休憩

15:50-17:20 パネル討論 第5期科学技術基本計画に向けた ICT

コーディネータ

喜連川 優*（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長）

C S T I 議員（調整中）

有本 建男（政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策プログラムディレクター・教授）

西尾章治郎*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授、文部科学省総合政策特別委員会委員）

土井美和子*（日本学術会議第三部会員、独立行政法人情報通信研究機構監事）

徳田 英幸*（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学環境情報学部教授）

17:20-17:30 閉会挨拶

徳田 英幸*（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学環境情報学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（* 印の登壇者は、主催委員会委員）

(提案 15)

公開シンポジウム「グローバル化する中での国際報道と公共放送の役割」の開催について

1. 主催： 日本学術会議 社会学委員会 メディア・文化研究分科会
2. 日時： 平成 27 年 3 月 14 日（土）14：00～17：00
3. 場所： 日本学術会議講堂
4. 分科会等： 開催予定あり

5. 開催趣旨

ソーシャルメディアの急激な普及によってグローバル化がこれまで以上の広がりをもって進展している。こうしたなか、各国、各地域の様々な出来事や事件そして政治的事柄が様々なメディア、多様な情報伝達の回路を通じて、グローバルなレベルで伝達される時代に移行している。こうした中、既存のジャーナリズム・メディア機関は、「専門家」集団として、正確な情報、多角的な視点、信頼できる解説といった点で、これまで以上の役割を果たしていくことが強く求められている。

特に、国内ニュースの報道に傾斜し、報道量、分析、評価、といった諸点で、国際報道に関しては厳しい評価がなされている日本の状況において、公共放送が担うべき役割は極めて大きいと言わねばならないだろう。

本シンポジウムでは、こうした関心の下で、国際報道に関する公共放送の現状を多角的に明らかにすること、海外の地域研究を専門とする研究者の視点で、公共放送の現状をどう認識し、いかなる課題が提起されているか、この点について問題提起すること、さらに現在の課題に応えるべく、どのような組織的・制度的な改革が求められているかについての提案を行うことを目指している。これらの報告を受けて、それぞれの中核的に問題について、関連する研究者・専門家からコメントをもらう。その後、フロアからの質疑も交えながら、ソーシャルメディアが台頭するメディア環境の中で、国際報道の在り方、公共放送の具体的なあり方について活発な議論を展開したい。

6. 次第

開会挨拶 14：00～14：05

遠藤 薫*（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）

シンポジウムの趣旨説明 14：05～14：15

吉見 俊哉*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環教授）

問題提起 14 : 15～16 : 15

林 香里 (東京大学大学院情報学環教授)

酒井 啓子* (日本学術会連携会員、千葉大学法経学部法学科教授)

音 好宏 (上智大学文学部教授)

NHK 関係者 (現在交渉中)

討論者 16 : 15～16 : 45

伊藤 守 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

毛利 嘉孝* (日本学術会連携会員、東京藝術大学音楽学部准教授)

全体討論 16 : 45～17 : 30

閉会の挨拶

藤垣 裕子* (日本学術会連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授)

全体の司会、コーディネーター

田嶋 淳子* (日本学術会連携会員、法政大学社会学部教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案 16)

公開シンポジウム「人材育成のための材料工学とは～学士課程教育の参照基準と科学・夢ロードマップ～」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 材料工学委員会
2. 共 催： 日本鉄鋼協会、日本金属学会、全国大学材料関係教室協議会
3. 日 時： 平成27年3月20日（金） 9時20分～11時55分
4. 場 所： 東京大学 駒場 I キャンパス 21KOMCEE
5. 分科会の開催：未定

6. 開催趣旨：

日本学術会議において策定された「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 材料工学分野」ならびに改訂された「材料工学分野 科学・夢ロードマップ」を紹介し、大学における材料工学教育・研究のあり方について、産官学の立場から議論を行う。

7. プログラム（案）

司会：森田 一樹*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

9:20- 9:40 「日本学術会議における材料工学委員会の活動」

吉田 豊信*（日本学術会議第三部会員、独立行政法人物質・材料研究機構NIMSフェロー、東京大学名誉教授）

9:40-10:10 「材料工学分野の参照基準について」

山口 一周*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

10:10-10:40 「材料工学分野の夢・ロードマップについて」

長井 寿*（日本学術会議連携会員、独立行政法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点長）

—休憩—

10:50-11:20 「中等教育の理工学分野への展開と次世代育成活動」

大島 まり（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環・生産技術研
究所教授）

11:20-11:50 「ものづくり産業における材料工学の役割と期待（仮）」
調整中

11:50-11:55 閉会の辞

中嶋 英雄*（日本学術会議第三部会員、公益財団法人若狭湾エネルギー研究
センター所長、大阪大学名誉教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案 17)

公開シンポジウム「天然物ケミカルバイオロジー研究の新展開」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同 農芸化学分科会、
日本農芸化学会
2. 日 時：平成 27 年 3 月 29 日（日）13:30～16:05
3. 場 所：岡山大学津島キャンパス教養 A 棟 2F（岡山市）
4. 分科会の開催：開催予定あり
5. 開催趣旨：
「天然物ケミカルバイオロジー」は、自然界から発見された多様な生理活性天然物の標的分子の同定とその作用機構の解析を行い、生命現象の発現機構を分子レベルで解明することを目指す新しい研究領域である。そこから得られる情報が農薬・機能性食品・医薬などの合理的設計に繋がるものと期待されることから、本シンポジウムでは天然物ケミカルバイオロジーの第一線で活躍している研究者の最新の成果を紹介し、今後の展開について議論する。
6. 次 第：
13:30 はじめに
清水 誠*（日本学術会議二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）
13:35 「イネ科植物の鉄イオン取り込み機構に関する有機化学的研究」
難波 康祐（徳島大学薬学部教授）
14:05 「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質酵素（Glycolipozyme）MPIase
の構造と機能」
西山 賢一（岩手大学農学部教授）
14:35 「二フッ化シアル酸：インフルエンザ・シアリダーゼの機構解明と共有結合阻
害剤の開発」
清田 洋正（岡山大学大学院環境生命科学研究科教授）
15:05 「疾患シグナルに作用する天然物スクリーニング研究」
石橋 正己（千葉大学大学院薬学研究院教授）
15:35 「ケミカルゲノミクス：生理活性物質標的の同定に向けた網羅的アプローチ」
吉田 稔*（日本学術会議連携会員、独立行政法人理化学研究所環境資源科
学研究センター主任研究員）
16:05 閉会
7. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 18)

公開シンポジウム「ゲノム育種の実践を目指して」の開催について

1. 主催：日本学術会議 食料科学委員会 畜産学分科会
2. 共催：日本産学アカデミー、日本畜産学会
3. 日時：平成27年3月30日（月）9：00～12：00
4. 場所：宇都宮大学 大学会館多目的ホール
5. 分科会の開催：予定なし

6. 開催趣旨：

ゲノム研究が進展する中であって畜産学においては「ゲノム育種」に期待が集まっている。家畜の経済的に重要な能力（形質）は遺伝と環境の影響を受けている。これまでは、このような経済的に重要な形質の遺伝的能力を見極め、その原因遺伝子を探索する事が中心であった。新たな展開として、形質と強く関連する個々の遺伝子をつきとめることを目指すよりもむしろ、あらゆるマーカーを能力予測のための情報として使う手法が提唱されている。この手法は「ゲノム育種」の基本的スタンスである。家畜ゲノム研究の発展により、米国では乳用牛の改良にゲノム育種技術が急速に普及しつつあり、わが国でも実践に向けての動きが加速している。このような動きについて若手研究者、学生、高校生、及び市民の方々とともに考える公開シンポジウム（参加費無料）を企画した。

7. 次 第：

9:00～9:10 はじめに

渡邊 誠喜（日本畜産学アカデミー会長）

司会：安江 博（独立行政法人農業生物資源研究所研究員）

9:10～9:30 基調講演「家畜ゲノム育種への期待と願い」

佐藤 英明*（日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良センター理事長）

9:30～10:00 育種価の予測法と統計的モデルの発展

祝前 博明*（日本学術会議連携会員（京都大学大学院農学研究科教授）

10:00～10:30 「ウェブ上で実現できるゲノムワイド関連解析：農畜産物ゲノム育種の一助として」

土井 考爾（独立行政法人農業生物資源研究所農業生物先端ゲノム研究センター研究員）

10:30～11:00 「ブタのゲノム育種の実用化へ向けて」

美川 智（独立行政法人農業生物資源研究所農業生物先端ゲノム研究センター研究員）

11:00～11:30 「黒毛和種産肉形質のゲノム育種価評価」

渡邊 敏夫（独立行政法人家畜改良センター技術部調査役）

11:30～11:55 総合討論

コメンテーター

杉本 喜憲（公益社団法人畜産技術協会附属動物遺伝研究所長）

11:55～12:00 おわりに

内藤 邦彦（日本畜産学会理事長、東京大学農学生命科学研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 19)

公開講演会「原子力発電所事故に伴う放射性物質による環境汚染と家畜、野生動物の実態」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会 畜産学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本畜産学会
3. 後 援：栃木県、大学コンソーシアムとちぎ
4. 日 時：平成27年3月30日（月）13：30～17：00
5. 場所：宇都宮大学 大学会館多目的ホール
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

東日本大震災後に起きた東京電力福島第一原子力発電所事故はヒトの生活とそれを支える環境や資源に対する未曾有の影響を与えたものと推察され、環境や農水産物の汚染による農林水産業の衰退が大いに懸念されている。事故によって飛散した放射性物質が水圏と陸圏にどのように分布し、棲息する生物に影響を与えているかを様々な段階で時間を追って把握することは、我が国の国民生活や産業への影響を明らかにするために欠かせない。本講演会は事故後4年を経過する2015年3月に、事故発生から4年間の時空間的な状況を福島県に近接する栃木県の市民をはじめ近隣の方々に知っていただく機会を提供するものである。

8. 次第：

13：30 開会挨拶

内藤 邦彦（日本畜産学会理事長、東京大学農学生命科学研究科教授）

基調講演

13：40—14：40 「原子力発電所事故による放射性物質汚染とヒトとの関わり」
福本 学（東北大学加齢医学研究所教授）

14：40—14：50 休憩

14：50—15：20 「福島第一原子力発電 所事故による被災家畜、特にウシの体内における放射性物質の動態」

福田 智一（東北大学大学院農学研究科准教授）

15：20—15：50 「食の安全を目指して—放射性Csの取り込みと排出」
磯貝恵美子（東北大学大学院農学研究科教授）

15：50—16：20 「野生動物における動態」

小寺 祐二（宇都宮大学農学部附属雑草と里山の科学教育研究センター講師）

16：25—16：50 総合討論

眞鍋 昇* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

福本 学 (東北大学加齢医学研究所教授)

福田 智一 (東北大学大学院農学研究科准教授)

磯貝恵美子 (東北大学大学院農学研究科教授)

小寺 祐二 (宇都宮大学農学部附属雑草と里山の科学教育研究センター講師)

16:50-17:00 結びの言葉

佐藤 英明* (日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良センター理事長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案20)

公開シンポジウム「第3回国連防災世界会議における関連ワークショップ『ジオハザード軽減に向けた地球科学の人材育成：防災国際ネットワーク構築』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 I U G S 分科会
2. 共 催：東北大学災害科学国際研究所、公益財団法人日本国際協力財団、独立行政法人産業技術総合研究所
3. 後 援：独立行政法人海洋研究開発機構、東北大学、東京大学、明治大学、大阪市立大学、岡山大学、
4. 日 時：平成27年3月15日（日）13：00 ～ 20：00
5. 場 所：東北大学川内北キャンパス C202 教室
6. 分科会の開催：会議当日の午前中に東北大学（仙台市）にて開催する

7. 開催趣旨：

活動的な沈み込み帯に位置する国々では活発な地球活動に関わる災害が多発する。地震・津波、火山活動、異常気象に伴う地滑りなどである。沈み込み帯に位置する国々は、開発途上国が多く、これらの地質災害にかかる備えが不十分である。災害先進国である、日本が、今まで培って来たノウハウを提供し、ともに減災に向けた取り組みをすべきである。

本ワークショップでは、地震、津波、地滑り、火山災害等の地質災害を被る可能性が高い国々に対して、日本を始めとする災害先進国がどのようにしてノウハウの移転を行うか、その問題点と仕組みづくりを議論する。可能であれば、日本発の Capacity Building Model を構築することを目指す。

8. 次 第：

13：00 開場

司会：北里 洋*（日本学術会議連携会員、独立行政法人海洋研究開発機構上席研究員）

（13：10～13：30）

開会の挨拶

北里 洋*（日本学術会議連携会員、独立行政法人海洋研究開発機構上席研

究員)

趣旨説明 (同上)

(13:30～15:45)

第一部: Geohazard 人材育成の現状紹介

* Dr. Nalin Ratnayak; Senior Lecturer, University of Moratuwa, Sri Lanka

* トルコ (人選中)

* Prof. Dr. Iskandar Zulkarnain; LIPI President, Indonesia

* Dr. Punya Charusiri, Associate Professor, Chulalongkorn University, Thailand

* 日本 (JICA Project などを受け入れている大学研究機関からの報告; 東北大学
今村所長を予定)

(15:45～16:00) 休憩

(16:00～18:00)

第二部: Geohazard 関係のキャパシティービルディングに向けて

JICA から「防災人材育成プログラム」に関する枠組みの提案

コメント

西 弘嗣* (日本学術会議連携会員、東北大学学術資源研究公開センター東北大学総合学術博物館教授)

木村 学* (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授)

佃 榮吉* (日本学術会議連携会員、独立行政法人産業技術総合研究所理事)

UNESCO (Dr. Patrick MacKeever) のメッセージ

IUGS (President のサポートレター紹介)

第三部: 提言

文部科学省 (地震対策課 or 海洋地球課)、国土交通省、経済産業省など所轄官庁からの挨拶

(18:00～20:00)

関係者意見交換会 (仙台市内)

9. 関係部の承認の有無: 第三部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案 21)

公開シンポジウム「国際光年記念シンポジウム」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 総合工学委員会 ~~ICO 分科会~~ 第三部

2. 日 時： 平成27年4月21日（火）14:00～17:30

3. 場 所： 東京大学安田講堂

4. 分科会の開催：開催予定あり

5. 開催趣旨：

国際連合(UN)総会第68会期において、2015年を光と光技術の国際年、International Year of Light and Light-based Technologies (IYL 2015) とすることが宣言され、その推進にはユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が関わることになった。この国際光年に対しては ICSU, ICO, IUPAP, IUPAC, ISSC など各学術団体が支持しているところである。わが国においても、日本学術会議が、光と光技術に関わりの深い科学者コミュニティと協力して、各種シンポジウムやイベントの実施、市民への啓蒙活動に取り組むことが広く期待されている。

本記念シンポジウムは、我が国の国際光年の活動の一環として、光科学技術の研究者コミュニティの集結を図るとともに、若手研究者や学生のみならず、広く市民に対して、光の科学技術の重要性と魅力を伝えることを目的として開催する。これにより、「光」に関する活動を促進することの重要性を一般社会の中に浸透させることができる。

「光」は、医療、エネルギー、情報、通信、一次産業、天文、建築等あらゆる科学技術から芸術、文化に至るまで、我が国の学術分野に広く関わるものであることをなすものである。よって、日本学術会議が、本記念シンポジウムを開催するのは意義深い。

8. 次 第：

司会 渡辺美代子（日本学術会議第三部会員、独立行政法人科学技術振興機構執行役）

14:00 開会挨拶：趣旨説明

荒川 泰彦*（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

14:10 日本学術会議挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長）

14:15 来賓挨拶

内閣府、文部科学省（調整中）

五神 真*（日本学術会議会員、東京大学総長（4月就任予定））

14:30 講演「光の科学」

霜田 光一（東京大学名誉教授）

15:00 講演「光と天文学」

家 正則（国立天文台 TMT プロジェクト室長）

（休憩 15 分）

司会 松尾由賀利*（日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授）

15:45 特別講演「青色 LED への道」

天野 浩（名古屋大学大学院工学研究科教授）

16:25 講演「光のデザイン」

石井 幹子（石井幹子デザイン事務所）

16:50 閉会挨拶

相原 博昭（日本学術会議第三部会員・第三部長、東京大学理事・副学長・大学院理学系研究科教授）

17:00 若手研究者によるポスター発表（18:30 まで）

~~9. 関係部の承認の有無：第三部承認~~

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 2 2)

公開シンポジウム「第 28 回環境工学連合講演会『Future earth：工学が果たす役割について』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会学際連携分科会
2. 共 催： ○(公社)化学工学会、(公社)環境科学会、環境資源工学会、
(公社)空気調和・衛生工学会、(公社)高分子学会、
(一社)資源・素材学会、(公社)地盤工学会、静電気学会、
(公社)大気環境学会、(公社)土木学会、(公社)日本化学会、
(一社)日本機械学会、(一社)日本建築学会、(公社)日本水道協会、
(公社)日本セラミックス協会、(一社)日本鉄鋼協会、
(一社)日本土壌肥料学会、(公社)日本分析化学会、
(公社)日本水環境学会、(一社)廃棄物資源循環学会
(○印は幹事学会)

3. 日 時：平成 27 年 5 月 15 日 (金) 9:15～18:00

4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 分科会の開催：なし

6. 開催趣旨：

平成 24 年 (2012 年) の Rio+20 を機に国際科学会議 (ICSU) 等の 7 つの学術コミュニティの連携のもとで進められている「Future earth」が平成 26 年 (2014 年) より本格的に動き始める。「Future earth」が目指すものは何か？また、環境工学はどのように貢献できるか？本シンポジウムでは、「Future Earth」への取組に関する特別講演と官・学・民の研究者および技術者による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、こうした問いに応えながら、バランスのとれた環境工学の発展像を探る。

7. 次 第：

開会 (9:15～9:20)

開会挨拶：

嘉門 雅史* (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

【Future earth を見据えて (9:20～10:20)】

座長

高島 和則 (静電気学会／豊橋技術科学大学環境・生命工学系准教授)

○招待講演：地球環境保全に貢献する科学技術の動向

浦島 邦子 (静電気学会／科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター セ

ンター長補佐・上席研究官)

- 招待講演：Future Earth における日本のリーダーシップ
福士 謙介 (土木学会／東京大学国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構教授)
- 招待講演：Future Earth に向けた工学の再定義
安井 至 (日本化学会／独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長)

【Future earth への貢献を考える (10:20～11:40)】

座長

- 岸本 充生 (環境科学会／東京大学公共政策大学院特任教授)
- 招待講演：環境工学としての化学工学 — Future Earth への貢献
黒沢 厚志 (化学工学会／エネルギー総合工学研究所プロジェクト試験研究部部長)
- 招待講演：サステイナビリティ学による Future Earth への貢献と今後の課題
齊藤 修 (環境科学会／国連大学サステイナビリティ高等研究所研究員)
- 招待講演：持続可能な未来のための大気環境科学 —霧と露の化学研究からの展望—
井川 学 (大気環境学会／神奈川大学工学部物質生命化学科教授)
- 招待講演：Future Earth への Human Activity Stress の定量評価手法としての LCA
原田 幸明 (日本 LCA 学会／物質・材料研究機構元素戦略材料センターNIMS 招聘研究員)

【環境の理解から (11:40～12:40)】

座長

- 小林 潤 (廃棄物資源循環学会／工学院大学工学部機械工学科准教授)
- 招待講演：身体・建築・地球環境—その繋がりを考える—
宿谷 昌則 (日本建築学会／東京都市大学環境情報学部・大学院環境情報情報学研究科教授)
- 招待講演：全球的理解のための地球観測技術とネットワーク化
野尻 幸宏 (日本分析化学会／国立環境研究所地球環境研究センター上級主席研究員)
- 招待講演：熱帯アジア・アフリカ地域の稲作の安定化と拡大におけるケイ酸の役割
増永 二之 (日本土壌肥料学会／島根大学生物資源科学部地域環境科学科教授)

昼食 (12:40～13:30)

【特別セッション (13:30～14:00)】

座長

- 依田 照彦* (日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授)
- ◎特別講演：Future Earth への我が国の取組の現状と課題
春日 文子 (日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長)

【都市・システムの設計から (14:00～15:20)】

座長

- 秋元 孝之 (空気調和・衛生工学会／芝浦工業大学工学部建築工学科教授)
- 招待講演：再生可能熱エネルギー利用と社会的仕組みづくり
秋澤 淳 (日本機械学会／東京農工大学工学研究院先端機械システム部門教授)

- 招待講演：持続可能な低炭素都市を支えるエネルギー自立型建築
丹羽 英治（空気調和・衛生工学会／株式会社日建設計総合研究所主席研究員）
- 招待講演：気候変動に適応した持続可能な都市圏水利用システム（仮）
古米 弘明（日本水環境学会／東京大学大学院工学系研究科教授）
- 招待講演：スマート都市と水インフラへの情報制御技術の貢献
舘 隆広（日本水道協会／株式会社日立製作所インフラシステム社システム統括事業部主管技師）

【資源循環から（15:20～16:40）】

座長

- 肴倉 宏史（地盤工学会／国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員）
- 招待講演：レアメタル循環型社会の重要性とリサイクル技術
藤田 豊久（環境資源工学会／東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授）
- 招待講演：難処理鉱物資源のバイオハイドロメタラジの潮流
笹木 圭子（資源・素材学会／九州大学大学院工学研究院教授）
- 招待講演：低炭素社会と循環型社会に向けた地盤工学における取り組み～他産業廃棄物のリサイクルを中心に～
ハザリカ ヘマンタ（地盤工学会／九州大学大学院工学研究院教授）
- 招待講演：水銀の環境上適正な管理について
高岡 昌輝（廃棄物資源循環学会／京都大学大学院工学研究科教授）

【新材料の開発から（16:40～17:40）】

座長

- 阿部 英喜（高分子学会／理化学研究所環境資源科学研究センターバイオマス工学連携部門チームリーダー）
- 招待講演：プラスチック、ゴム製品のバイオマス原料使用率の評価法とその ISO 国際標準規格
国岡 正雄（高分子学会／独立行政法人産業技術総合研究所環境化学技術研究部門循環型高分子グループグループ長）
- 招待講演：セラミックス分野における環境関連材料研究
三宅 通博（日本セラミックス協会／岡山大学大学院環境生命科学研究科教授）
- 招待講演：炭素循環技術による低炭素社会への貢献
加藤 之貴（日本鉄鋼協会／東京工業大学原子炉工学研究所エネルギー工学部門准教授）

閉会（17:40～17:45）

閉会挨拶：

細見 正明（化学工学会／東京農工大学工学研究院応用化学部門教授）

8. 関係部の承認の有無： 第三部承認

（* 印の登壇者は、主催委員会委員）